

繊維トップに聞く

求められる変化への対応

品種、用途の拡大進む

——今期（16年12月期）の状況

当社の稼働は、6月までは前年

並みをキープし、7～9月もフル

稼働の見通しです。しかし先行き

には懸念材料も多くあります。こ

れまでリードしていく高密度タフ

タはブームから遠ざかっています

し、市場環境も国内はデフレ基

調、海外輸出も欧州や中国が低迷

しているところに、円高が追い打

ちをかけています。円高によつ

て、再び海外品への置き換えが進

むのではと先行きを危惧していま

す。

——ここまで稼働を維持できて

いる要因は。

「革新200」でもテーマにあげ

た、品種、用途の拡大が進んでい

丸井織物社長

宮本徹氏



新規事業、生産にIT活用

か。

昨年1年の取り組

みで、用途や素材、

お客様の多様化が進ん

きました。糸加工

や染色といった織り

の前後の工程とも連

携し、マーケットニ

ーズを先取りした提

案ができるような

「自律型」の機能を

さらに強めたいと考

海外は、現在は中国にエアバッ
グ基布およびスポーツ向けの丸井
織物南通がありますが、加えてA
SEAN（東南アジア諸国連合）
でも足場を築きたいと思っていま
す。世界に売っていくには、AS
EAN抜きには考えられません。
外部との連携を含め、進出を検討
していきます。

生販の仕組みを進化

は、Tシャツ、織布の両方で進
んでいます。

本業の織布の生産現場でもIT
活用をますます強化しています。

準備、整経の工程では全ての機器
へのセンサーの搭載が昨年、完了

しました。経糸の糊の量、乾燥や
湿度の状態などのデータを収集、
蓄積していますが、これをどう活

用していくのかを検証し、生産や
販売の仕組みを進化させていきた
いです。

ます。もともと
当社は裏地が主

力でしたが、そ
れがスポーツ・
アウトドア・ジャ

ケットなどの高
密度タフタに広
がり、最近では中肉素材を含むボ

トム、ジャケット、シャツ向けが
好調です。

今年下期に向けてもポリエステ
トム、ジャケット、シャツ向けが
好調です。

——中期ビジョンの進捗はどう
い用達に期待しています。

弱いですが、商品力を強みに提案
を委託へも波及させたい。

えています。
自販、提案委託、海外、IT
(情報技術)の四つの事業でミッ
ショーンを設定していますが、自販
80台に増設して体制を整えまし
た。これまで短繊維系の縫糸使
いはやっていましたが、経糸使い
の開発も終え、これをきっかけに
婦人やユニフォームといった新し
い用途に期待しています。

——中期ビジョンの進捗はどう
い用達に期待しています。

サイクルを継続し、成果も生まれ
ています。量を売る力はまだまだ
弱いですが、商品力を強みに提案
を委託へも波及させたい。

乗ります。

「ITが織布事業どう関係す
るのか」と疑問に思われるかも知
れませんが、消費者に直接売つ
いく仕組みを作ったり、そこに物
作りを連動させていくことが既存
事業にも波及していく可能性があ
ります。

オンラインでオリジナルのプリ
ントTシャツが作れる「U P-I
T」(アップティー)、小ロット
から生地を貰える「テキスタイル
モール」、LINEスタンプ作成
といった新規事業を手がけ、Tシ
ャツやLINEスタンプが軌道に

（おわり）